

# ちよつとくいけ?

温故知新! 掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ、たず子)をインタビュー。

## 須田郁郎さん 90歳(砂町)



Q 須田さんのお宅は「くりものや」という屋号で親しまれていますが、当時はどんな仕事をしていましたか?  
木材を旋盤で削って独楽(こま)を作っていたけど先代はくけ台を作ってたよ。(裁縫に使う道具)

Q 津倉邸に関する思い出はありますか?  
俺は同級生がいたから良く屋敷に遊びに行ったよ。節分には手ぬぐいで作った巾着袋を持って、近所の家を順番に回って豆やお菓子を拾ったよ。お大様(裕福な家)じゃ菓子やせんべいの他にお金もまいたぞ。(笑)

Q つたやさんの家は津倉邸から曳家で運んだ事をご存知ですか?  
もちろん知ってるよ、実際に見たからな。たくさんの丸太にのせて大勢で曳いてたよ。

Q 戦争で体験したことを教えてください。  
学校を卒業して17歳で若者に入って、新年番になってた。でもそれから戦争があったから戦時中から終戦の年までは祭もやれなくなつて...俺はたった100日間だけだったけど兵隊だったぞ。大当町の防空監視哨で敵機の監視をしていたよ。目視とエンジンの音で敵機が友軍機かを判断して、名古屋管区に電話で報告するんだ。一度、空襲警報が発令されてサイレンを鳴らした事があったな。



Q 戦後思い出に残っている事はありますか?  
復員して帰ってきてからは楽しみも無く退屈でな。そしたら先輩が野球を教えてくれたんだ。その頃はまだ野球なんて知らなくて、昼になると先輩たちがやってきてキャッチボールをしたな。俺はなかなかピッチャーの素質があつてカーブだつて投げれたぞ。最初の頃は道具も無くてな、グロープは厚い布を縫って中にボロきれを詰めて、バットは親父の知恵を借りながら「くりものや」の旋盤で回転数を調整して試行錯誤して作つた。その内仲間も増えてチームを作つた。チーム名は「竜南(りゅうなん)」。西光寺のチームと試合をしたな。チーム名は...ヤングマンだつたかな。床屋の加藤さんはいつもバリカンを持っていてのだからアンダーローが上手だつたよ。(笑)



とても器用な郁郎さん。写真の腕前は素晴らしい。今まで撮られた数ある写真の中から古い屋台の写真をお借りしました。それにしても砂町、ものずこい人数ですね。(by のりこ)

## 足立たず子さん 85歳(新町)

Q 子供の頃の事を聞かせて下さい  
3歳の時に父を亡くして、母と妹と3人で川袋の親戚に身を寄せたの。その後母が再婚して私だけ残つて、5歳の時に新町の親戚と暮らす事になったけど本当に良くしてもらつたのよ。今も近所さんや友人にもとても良くしてもらつてらるわ。



Q どんな風に過ごしていましたか?  
小学校は神主の関さんが先生だつたから、学芸会の「もも太郎」では袴を借りたのよ。子供の頃は近所に大勢友だちがいたから、新町の秋葉山の所の空き地で、よくかくれんぼをして遊んだよ。夏は川に遊びに行ったり、学校の授業でも新町の西側で泳いだの。犬かきで(笑)。昔はテレビも何もなく外で遊ぶことが多くて、ほうほうの家へ遊びに行かせてもらったの。みんなによくしてもらつたよ!

Q 昔のお店とか印象深い所はありますか?  
帝国館に行ったよ。歌劇団が来てたね。映画もあつたけど観劇もやつたのよ。うーん、あれは終戦後だつたから...。あと、砂町のくり物屋の工場や玉突きを覗いたりしたね。



(※当時は西光寺が幼稚園でした)

Q 戦争の時の事、何か覚えていますか?  
尋常小学校の頃、天竜川の河川敷で開墾した事があるよ。橋の上から河原へ降りて「おさつま」を植えていたの。駒場に飛行場があつたから草刈りに行った事もあるわ。学校の帰りに艦砲射撃があつて田んぼの土手に張り付いてやり過ぎた事もあったわ。浜松空襲の時、堤防に見に行ったら川西が真っ赤だつたのがとても怖かつた...

【最後に窓際の机に飾られた写真を見せていただきました】  
お菓子が供えられた額には数年前に亡くなられたご主人、たず子さんのお両親、育ててくれた新町のご家族とたず子さんが一緒に写つた写真の3枚が丁寧に貼られていました。大切な人達に見守られながらたず子さんは毎日を明るく過ごされています。「色々あつたよ、色々。人生色々」そう言つてたず子さんは笑つてくれました。



幼少の頃で苦労があつたにも拘わらず、常に周りに感謝して明るく生きてこれ、「みんなよくしてくれた」...インタビュー中この言葉を何度も聞きました。そんなたず子さんの人柄に自然に人が集まってくるんだらうなあと感じました。どんな事でも感謝する気持ち。私もたず子さんを見習つて歳を重ねて行きたいなあと思ひました。とっても素敵なお話をありがとうございました! (by さゆり)

# みんなと倶楽部



## 第2号

P1 旧津倉邸の草刈りをしました

「松下家の記憶」講演会を開催

直近の予定

P2 旧津倉邸探訪其の二

P3 掛川のサマーフェスタに行つて来たに

ちよつとくいけ?

須田郁郎さん(砂町)

足立たず子さん(新町)

## 7/16 旧津倉邸の草刈りをしました

今回も晴天の中、津倉邸の草刈りを実施しました。前週が雨天だったため翌週に順延になったこともあり、若干人数も少なかったのですがとてもきれいになりました。

途中、東京で植木屋さんをされている中嶋さんという方が入つてこられました。休暇を利用して各地の古い建造物や石などを見て回る旅の途中で掛塚には中町の林邸のお蔵を見学に来たそうです。

植木屋さんとお聞きして植木の剪定を...などと思つていたら「おれはいま休暇中なんだからやんねえよ!」と言われてしまいました。ですがそう言われたしばらく後には「ちよつとハサミ貸して!」といつてチヨキチヨキ。多分血が騒いだんですね。(笑)

そのうち脚立に上つて「いいか、こつこつ所はな...。」とレクチャーが始まりました。枝葉がびて高さが不ぞろいな枝(ひいらぎ)を見て

「これなんかもだいが暴れてつから太い所からでる枝はなるべく低くして...。」

「こんなのも落とせ、なつ。これくらいの方がバランスいいから!」

「こつこつのはこつこつやって作んな。」

口調はぶつ切りはぼうただけ顔は笑つていて、そして最後は「おしまい!!」といつてハサミを置き次の見学場所へと向かわれました。

本当につかの間の「植木のお手入れ教室」でしたが、みんなで中嶋さんの話を真剣に聞いて楽しい時間を過ごす事ができました。その後再開した草刈りは嵐のように去つていった中嶋さんの話で盛り上がりしました。

(by のりこ)



## 「松下家の記憶」講演会を開催

文化財課主幹の竹内直文さんを講師に迎えて、先年に取り壊しとなった「中の中屋」の在りし日の記録写真を交えながら、松下家の歴史を楽しく講演して頂きました。

当会員の他に、沢山の方にも講演を聴きに来て頂きました。

今後も掛塚にまつわる歴史について講演会・勉強会等を企画していきますので、是非ご参加ください。

## 直近の予定

10/15-16

「旧津倉邸の一般公開」各種展示を予定しています。

11/19

「廻船問屋を訪ねる」半田の旧中屋半六郎、常滑の滝田家などの見学ツアーを予定しています。

## お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください!

☎0538-66-4775 (名倉)

みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 霧田茂巳、山内紀子、鈴木小百合

大日本報徳社の広場にはかき氷やクレープ、シフォンケーキなどのお店が並び、国の重要文化財に指定されている大講堂ではステージイベントを、県の有形文化財の仰徳記念館では「ママバトン」という不用品の物々交換が開かれています。

家に眠っている不用品を持ちこみ、持ち込んだ点数分の商品を持って帰る事ができるという仕組みです。これはとても画期的でいいアイデアだと思います。第2回が開催されたら今度は「ママバトン」にもお邪魔してみようと思います。



アイドル、ケーキ屋さん、お花屋さんなどは女の子に大人気でした。



のりこ&せゆり

昭和11年に掛川市に寄贈され平成19年に市指定有形文化財に指定されました。その後修復工事が行われ、現在は一般公開・貸室されていて会議やたくさんサークル活動にも利用されています。落ち着いた空間のカフェもあり、高い天井と立派な梁を見る事ができます。

主屋の書院座敷や二階洋間のステンドグラスのある窓から見える天守閣など見所は数多く、秋には枯山水の日本庭園で美しい紅葉も見られるそうです。



「竹の丸」(旧松本邸)

文化財の活用についての勉強の為今年の2月に「みんなと倶楽部」で見学に伺いました。「竹の丸」は山内一豊が掛川城に造成した掛川城郭の防衛上重要な拠点として、掛川藩重臣の屋敷があった場所です。明治36年に、江戸時代から続く葛布問屋であった「松本家」が譲り受け、本宅として主屋、離れ、庭園を構えました。離れは大正末期から昭和初期にかけて平屋から2階建てに増築されています。

8月6日第1回かけがわサマーフェスタが開催されました。有形文化財である竹の丸と国の重要文化財である大日本報徳社を活用して行われた「かけがわフェスタ」はたくさんの親子連れで賑わっていました。

竹の丸では子供たちが職業体験をする「キッズニア」というイベントが行われ、18種類の職業体験が準備されていました。各ブースでは日頃の仕事に従事されているプロの方が子供たちにやさしく楽しく指導されていました。

今回のキッズニアで体験できた職業は・・・



## 行って来たに

### 「第1回 かけがわサマーフェスタ」



## 旧津倉邸で使用されている木材

玄関をくぐり、まずは目に付く樺(ケヤキ)の大黒柱に注目してください。

大黒柱とは建物の中央に立てる主柱。家を支える役割はもろろんですが、来客の目に真っ先に触れますので見栄えにこだわり、家格を上げる役を担っている大切な柱です。

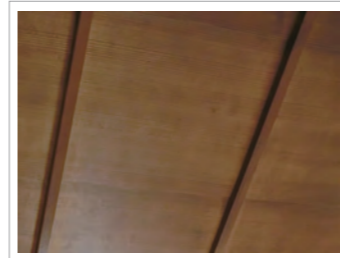
幅1尺5分(約31cm)と太さも十分ですが、柱を挟むように嵌め込まれた細かい格子戸が、おおらかで美しいケヤキの木目を引き立てています。

このように建物を支える構造材である柱をあえて見せるのが伝統的な日本家屋の特徴。大黒柱以外にも、各部屋で見られる柱に干割れが見られないのも驚きです。

廻船問屋の津倉家は材木商でもありましたので、良材を手に入れるのは比較的容易。座敷の天井に張られている杉板にしても柱目の美しい最上級品。水窪の山住から伐り出したという杉が使われています。



● 樺の大黒柱



● 杉の天井

## 旧津倉邸探訪◆◆◆其の二

座敷3面を取り巻くように廊下・縁側が設けられています。南側は松、西側は樺(ケヤキ)、北側は榎(コナラ)と、材木商らしく良材の見本展示のように使い分けられています。

特に北側の広縁とも言える廊下に使われている榎の柱目には、虎斑(トラハ)と呼ばれる独特な味わいのある木目が現れるそうです。

津倉家の榎は板目ですが、ブナ科の榎の最大の特徴は材の硬さ。そのため虎斑の美しさを生かしたくても、その硬さのため加工は大変難しく、良材を手に入れる財力と同時に、腕の良い大工がいなくては板に挽くこともできず、建築材として使うことなどできなかったのです。

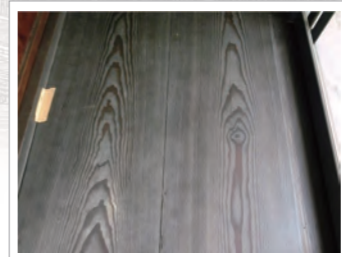
四畳半の茶室の天井板は、木目に味わいがある杉の板目。天井板を抑える椀木は山桜の枝のように見えますが、実際には細い丸太に山桜の樹皮を巻いて枝のように見せたものです。廊下寄りには杉板を矢羽に編んだ網代天井。柱にはヒノキの磨き丸太が使われたりして趣たっぷり茶室です。

北遠の良材の集積地であり、腕の良い木挽き、大工を輩出した掛塚ならではの技の粋が各所に残るのが津倉邸の魅力です。

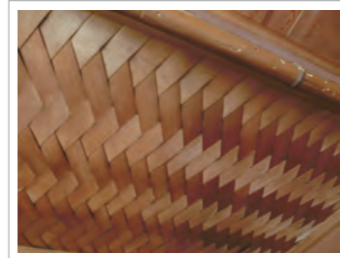
記事 齊藤朋之



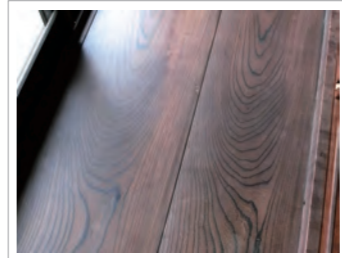
● 茶室の杉板天井



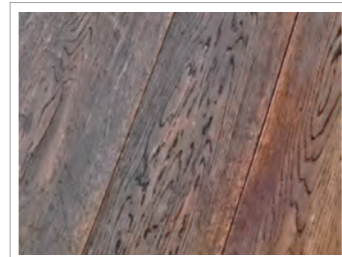
● 南側 松の廊下



● 茶室の網代天井



● 西側 樺の廊下



● 北側 榎の広縁